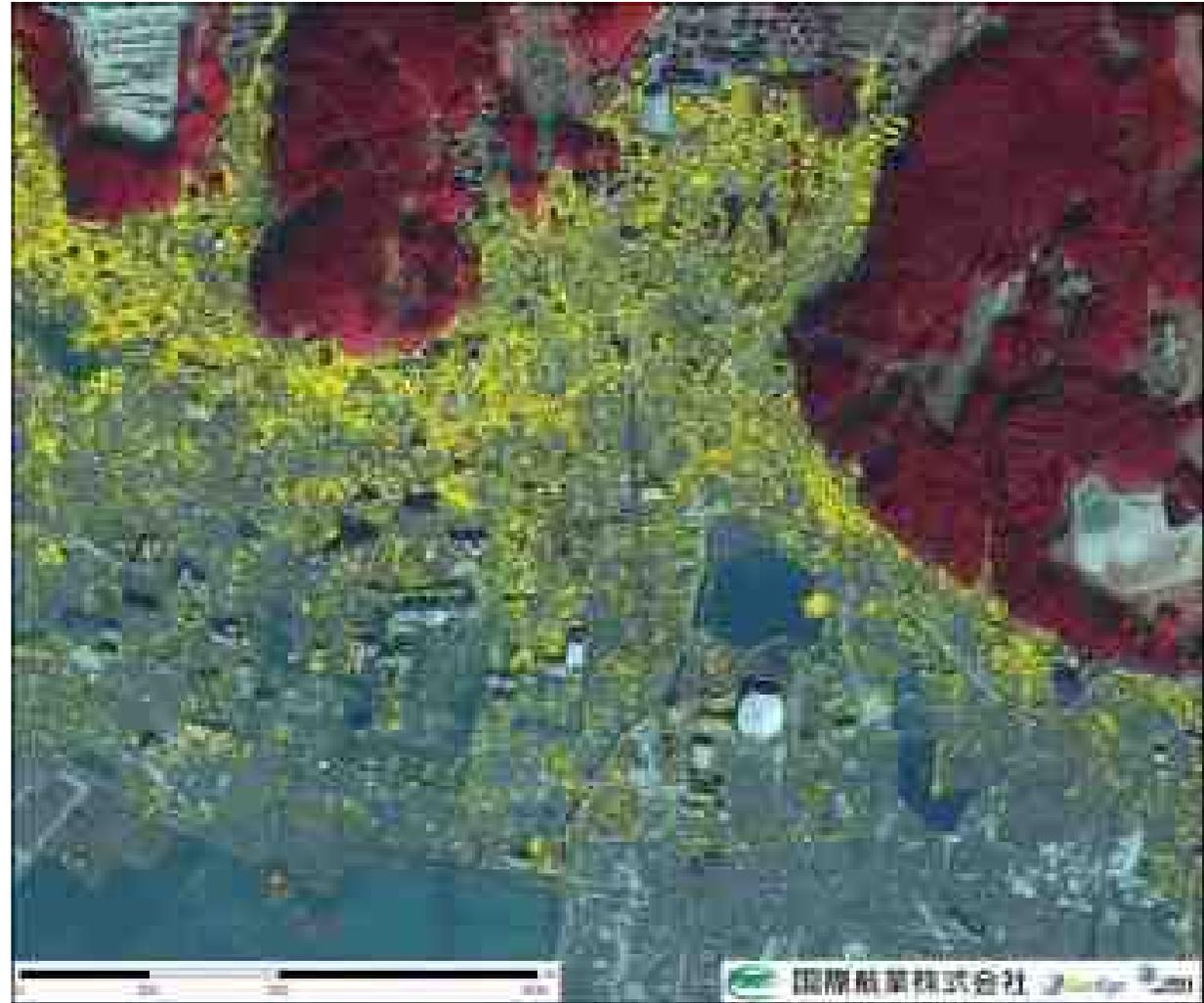




高分解能衛星による震災状況の詳細把握

- ▶ 東日本大震災により発生した瓦礫量
 - 岩手・宮城・福島で約2490万トン
 - 復旧・復興には、瓦礫の撤去が必要
 - 保険業界でも利活用

復旧・復興支援への活用

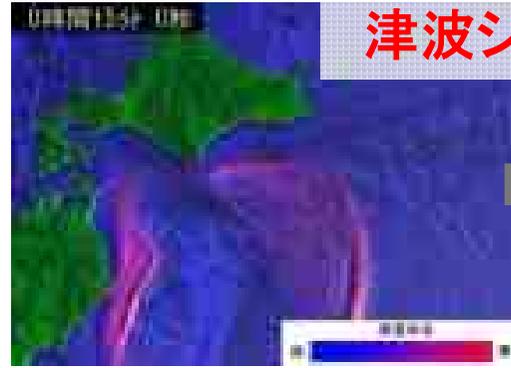


分布状況の把握と撤去状況のモニタリングが必要

GeoEye-1, 3月13日観測, 分解能50cm
画像処理による木材瓦礫抽出結果



津波シミュレーションとの連携

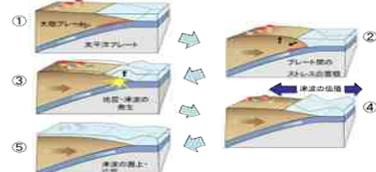


津波シミュレーションのチューニングにも活用



- 海底～地上まで
- 詳細な地形データ

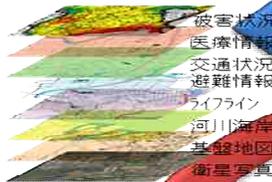
巨大津波の発生機構（プレート地震）



- 地震・断層解析
- 津波解析
- シミュレーション

G空間情報プラットフォーム

※最新データの
随時更新
・常時の利用
と災害時に備
えた情報整備
動的データ



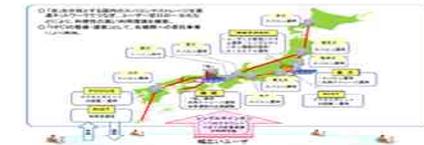
常時連携
災害時

全国版リアルタイム津波被害予測システム

即時津波浸水・被害予測システム全国版の確立



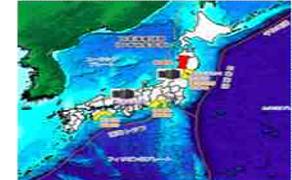
全国スーパーコンピュータ連携の実証



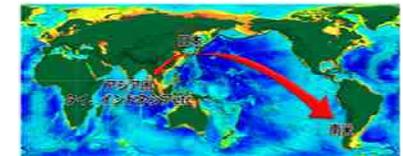
G空間情報との融合による
多層的な津波被害予測（重
要・教育施設、交通・ライ
フライン被害）

実用化・展開

日本全国版への展開



世界への展開



他災害情報システムとの
リンク・統合



展開

発展

Lアラート

災害情報共有システム(Lアラート)の概要



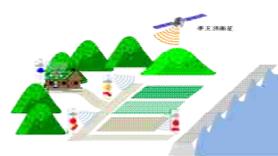
準天頂衛星など

様々な主体への配信 ⇒ 減災活動へ

タブレット端末
住民



自律型防災街灯



自治体・消防・警察・
関係省庁





震災復旧・復興まで対応

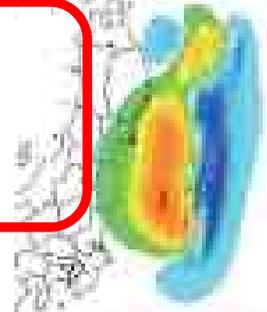
衛星の活躍場面はここ

東日本大震災では、空中写真判読による被害状況把握、津波再現シミュレーションなどを行い、応急復旧活動を支援しました。また、災害廃棄物処理支援、被災建物撤去、防災集団移転や区画整理事業、さらに除染に関する業務などを行なっています。

被災状況の把握



津波の再現シミュレーション



自治体の行政事務代行



除染作業支援



安全・安心のまちづくり



被災建物撤去支援業務



災害廃棄物処理支援業務



復興計画策定と事業の進捗管理



発災直後

- 被害状況の把握
- ・航空写真撮影、判読
- ・津波痕跡調査
- ・津波シミュレーション

復旧

- 公共施設・サービスの早期復旧
- ・現況調査、復興計画基図作成
- ・災害廃棄物処理計画策定
- ・損壊家屋等の解体申請受付支援
- ・地理空間情報(GIS)の構築・管理
- ・道路、港湾施設等の調査設計

復興

- 安心安全・利便性の高いまちづくり
- ・市街地盤整備（区画整理事業）
- ・公共施設（防災拠点・津波避難ビル等）整備の一括受託
- ・復興事業の進捗、施工管理
- ・再生可能エネルギー導入に向けた調査・計画・設計

次の災害に備える

- 持続可能で魅力あるまちづくり
- ・エコタウン事業
- ・メガソーラー事業
- ・行政業務代行
- ・インフラ施設維持管理
- ・ハザードマップ、防災教育
- ・防災情報伝達システム

→ 災害対応のトータルフローの中にしっかり位置付けることが重要

6. 今後の方向性と要望



リモートセンシングとコンサルタントの役割

* 社会ニーズのある多様な分野へ拡大展開する



◆ まとめと課題

- 社会実装推進には**トータルサービス**の中に衛星を「組み込む・位置付ける」ことが重要(**衛星はone of them**)
- ユーザに届く「**ラスト1マイル**」までやり抜くことが必要
- 積極的な**プロモーション**により社会的ポジション・認知を獲得
 - ⇔ まだまだ実績不足、上記も踏まえ**利用場面(出口)の拡大要**

◆ 具体施策提案: 日本(アジア)版Copernicusを作ろう!

- 欧州Copernicus(**衛星利用モデル開発プログラム**)を我が国に導入し、国内利用を推進するとともにアジアにも展開
- オープンフリーの流れの中、先ずは**国策衛星を中心に官需の喚起**
- サービス開発時から**官(民)ユーザ主導の運用体制構築**
- **シードマネーを投入**し、具体的な**先導例・成功例構築**に早急に着手